



不法投棄ごみを回収する公衛協推進委員

昨年、安芸高田市ハ千代町で山火事が騒ぎになり新聞でも一部報じられました。最初はすぐ消えるとみていましたが、火の勢いは強く消防団だけでなく防災ヘリ、広島市の消防車まで駆り出され、消防にあたる騒ぎとなりました。

産業廃棄物処理施設の廃タイヤに火が付き、消えるまで10日間水をかけ続ける事態になりました。この事態は、会社、行政、住民含め考えて考えなくてはいけません。

そもそもこの地域は、そもそもこの地域は、ごみの集積、埋め立てが長年行われ、林道、山林にまでごみがあふれた苦い経験を経て、行政の努力と住民の協力により大幅に改善され、山野にごみを見ることがなくなりました。

ごみの最終処分場ができると、その周辺の林道や山林には、いつの間にかごみが集まるということがあります。処分場でごみを処理するには費用がかかるため、林道や山林に持ち込まれるのではない過疎化により空家が増し、人の姿が消えます。

# 公衛協活動とごみ問題

## 共に学び、共に喜びあえる活動へ

1956(昭和31)年4月に「広島県公衆衛生推進要項」が制定され、県知事による公衆衛生推進委員(以下、「推進委員」)の委嘱後、各市町村で公衆衛生推進協議会(以下は「公衛協」)が設立されました。組織化された公衛協によつて、地域ぐるみの衛生活動が活発化したこ

### 環保協と公衛協のひもとく

④県衛連の設立

ごみの量は多く、焼却処分している分だけでも大変な量で、車が並んで捨てる・集める埋める人が存在している限り不法投棄はなくならないでしょう。

現在、安芸高田市のごみは、広島県地区衛生組合議会(以下は「県衛連」)の設立についてお話しします。

(安芸高田市公衆衛生推進委員会長 光永善治)

1956(昭和31)年4月に「広島県公衆衛生推進要項」が制定され、「推進委員」の委嘱後、各市町村で公衆衛生推進協議会(以下は「公衛協」)が設立されました。組織化された公衛協によつて、地域ぐるみの衛生活動が活発化したこ

## 予算は財源難で提案できず

### 県段階組織で密接な連携へ

とは言うまでもあります。せん。ちょうど同じ頃、県衛生部では県段階の組織の結成を念頭に置き、各市町村で、より直接準備を進めていました。採択後、直ちに設立

とは言うまでもあります。せん。ちょうど同じ頃、県衛生部では県段階の組織の結成を念頭に置き、各市町村で、より直接準備を進めていました。採択後、直ちに設立

在の夏季大学)において、広島県地区衛生組合議会(以下は「県衛連」)の設立について提案し、満場一致で採択されました。

1957(昭和32)年12月4日、当時の大原博夫県知事のほか、公衛協関係者や報道機

会議を幾度となく開き、設立趣旨書や会則案などを作成しました。

1957(昭和32)年12月4日、当時の大原博夫県知事のほか、公衛協関係者や報道機

会議を幾度となく開

き、設立趣旨書や会則案などを作成しました。

1957(昭和32)年12月4日、当時の大原博夫県知事のほか、公衛協関係者や報道機